

【授業科目】母性看護援助論 I (ライフステージ) Maternity Nursing I

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
日比千恵、野内香純	2年次後期	必修	1	15	講義	あり	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方)及び課題に対するフィードバック方法	<p>授業概要/女性の一生を通じた成長・発達を踏まえ、各ライフステージに特有の健康問題とその看護について理解する。リプロダクティブヘルスケアにおける健康問題とその看護について理解する。以上の2点を学習目的として学習する。小グループでともに学び合う共同学習を中心に授業を進める。事前に課題を提示し、授業日までに教科書または文献等を参考に課題についてまとめ、それらに基づき、授業日に意見交換を行う。課題に対するフィードバック方法/課題について文献を用いてレポート作成し、提出。提出した課題のコメントは授業で全体の総評を行う。 *実務経験を持つ教員が授業を進める。</p>							
授業の位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達すべき目標)	<p>①母性各ライフステージのセクシュアリティの発達が説明できる。 ②母性の各ライフステージの身体的・心理的特徴を述べられる。 ③母性の各ライフステージ各期の健康問題と支援方法を述べることができる。 ④リプロダクティブヘルスケアにおける健康問題とその看護について述べるができる。</p>							
時間外学習に必要な内容・時間	<p>【事前学習】第1～8回：母性看護学概論の教科書と資料を読み返しておく。教科書の関連領域・配布資料は事前に読み、提示された課題についてまとめる(30分) 【事後学習】第1～8回：各自の学びを復習することで確認する。(30分) 第6回 課題レポート提出</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間(2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回)(1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回)(1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回)を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>母性各ライフステージと看護 第1回 思春期の健康課題と看護 課題レポート提示</p> <p>第2回 成熟期の健康課題と看護</p> <p>第3回 更年期・老年期の健康課題と看護</p> <p>リプロダクティブヘルス/ライツと看護 第4回 人工妊娠中絶と看護</p> <p>第5回 性暴力と看護</p> <p>第6回 性感染症と看護 課題レポート提出</p> <p>第7回 遺伝看護(出生前診断を含む)、不妊症と看護</p> <p>第8回 子ども虐待と看護 課題レポートの発表および講評</p>							<p>第1～6回：日比</p> <p>第7回：野内</p> <p>第8回：日比</p>
評価方法 評価基準	<p>課題レポート20%、期末試験80%で総合的に評価する。</p>							
教科書	<p>系統看護学講座 母性看護学1『母性看護学概論』森恵美、他著 医学書院 系統看護学講座 母性看護学2『母性看護学各論』森恵美、他著 医学書院 (2年次前学期「母性看護学概論」の教科書を使用)</p>			<p>参考書等</p>		<p>池田正他著：成人看護学9『女性生殖器』医学書院 有森直子編著：母性看護学 I 概論第2版 女性・家族により添い健康を支えるウイメンズヘルスケアの追求 医歯薬出版株式会社</p>		
学生への助言等	<p>女性の健康はその時代の社会や文化に影響を受けます。また人生のあるライフステージの健康状態が次のライフステージの健康へ、さらには次世代にも影響するものです。課題レポートは母性に関連するテーマの中から関心のあるテーマの文献を検索し、読み、自分の考えをまとめます。積極的にさまざまな文献にあたり、母性看護学について、自己の考えを深められることを期待します。</p>							